

研究課題名：	日本における薬剤耐性菌アウトブレイクの自動検出
所属(診療科等)：	公立昭和病院 感染症科
研究責任者(職名)：	小田 智三 (医長)
研究期間：	2017年11月2日～2019年3月31日
研究目的と意義：	<p>薬剤耐性菌は、最も重要な公衆衛生学上の脅威のひとつとして認識されており、市中・院内問わず患者の治療困難、死亡率や医療コストの上昇などの弊害をもたらしています。また、薬剤耐性菌は国境を越えて広がるため世界的に公衆衛生学上の脅威となっており、薬剤耐性菌サーベイランスにおいても国際協力が求められています。</p> <p>薬剤耐性菌の世界的拡大に対処するため、厚生労働省院内感染対策サーベイランス（以下、JANIS）事業の運営業務を実施する国立感染症研究所薬剤耐性研究センターは、米国にある世界保健機関（WHO）の薬剤耐性菌サーベイランス協力センターとともに、各国の薬剤耐性菌サーベイランスシステムの構築を支援しています。JANIS 検査部門は、参加医療機関が行った全ての細菌検査結果を包括的に集計する、世界でも類を見ない大規模なサーベイランスデータ管理システムです。一方、WHO 協力センターが開発し無料配布している WHONET は、現在世界 120 ケ国以上の 2300 以上の検査室で活用されている細菌検査データ管理ソフトです。</p> <p>WHONET には、薬剤耐性菌アウトブレイク情報を検出する機能 WHONET-SaTScan が備わっており、これまでアウトブレイクの検出に関する知見が複数報告されています。しかし、多数の病院での適用や日本での有用性は確認されていません。そのため、本研究では、JANIS に参加する 1600 以上の医療機関のデータを用いて、WHONET-SaTScan による日本全国の薬剤耐性菌アウトブレイク（統計学的集積）の自動検出を行い、薬剤耐性菌アウトブレイクの重要度を分類する新規のアルゴリズムの開発と検証を行います。</p>
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2010年1月1日から2016年12月31日の間に当院に入院した患者 ●利用するカルテ情報 匿名化した診療記録（年齢、性別、基礎疾患など）および細菌検査データ ●研究方法 WHONET-SaTScan の重要度分類アルゴリズムにより検出された薬剤耐性菌アウトブレイク情報と、当院の診療記録と細菌検査データおよび薬剤耐性菌アウトブレイクへの対応を照合し、重要度分類アルゴリズムの妥当性を検証する。 ●利用する研究機関の範囲 公立昭和病院、国立感染症研究所薬剤耐性研究センター
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】</p> <p>氏名：小田智三 (感染症科医師)</p> <p>住所：小平市花小金井8丁目1番1号</p>

電話：042（461）0052（代表） FAX：042（464）7912

【ご意見・相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

総務課 042（461）0052 内線 2247

受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）